

## 第1回武蔵野市特別職報酬等審議会会議要録

■日時：令和2年11月30日（月）午後6時00分～午後7時45分

■場所：市役所6階 庁議室

■出席者：稲垣会長、大島会長代理、田中委員、田原委員、坪井委員、萩野委員、花俣委員、堀内委員、吉安委員  
総務部長、人事課長、人事課課長補佐（人事係長）、給与厚生係長、労務・定数担当係長

### 1 開会

### 2 委嘱状交付・委員自己紹介

### 3 諮問

市議会議員の議員報酬の額、市長、副市長等の給料の額並びに市長、副市長等の退職手当の額について

### 4 市長挨拶

（市長退席）

（事務局職員の紹介） （略）

### 5 議事

（1）会長互選 会長には稲垣委員が選任された。

会長代理指名 会長の指名により会長代理に大島委員が選任された。

（2）会長・会長代理挨拶

（3）議事の進め方及び今後の日程

○会議の公開等について

会議は公開とする。公開の方法として、会議要録を作成し各委員に内容を確認した後、委員の個人名を伏してホームページに掲載し、公開することとなった。

○今後の日程

調整の結果、今後のスケジュールは次のとおりとなった。

第2回 12月24日（木）午後2時30分～議会会派ヒアリング、市役所413会議室

第3回 1月21日（木）午後6時～市役所413会議室

答申 令和2年1月下旬～2月上旬を予定

#### （4）資料説明

事務局より次の資料が提示され、資料の要点について説明があった。

##### ①武蔵野市特別職報酬等審議会条例

同審議会委員名簿

##### ②武蔵野市議会議員の議員報酬等に関する条例

武蔵野市議会政務活動費の交付に関する条例

武蔵野市特別職の職員の給与及び旅費に関する条例

武蔵野市教育委員会教育長の給与、旅費、勤務時間及びその他の勤務条件に関する条例

##### ③給与改定の推移

##### ④武蔵野市決算状況の推移

##### ⑤武蔵野市特別職報酬等の改定状況

##### ⑥武蔵野市における市長給料に対する副市長等の給料の比率

##### ⑦武蔵野市の特別職（常勤）と一般職（管理職の最高年収者）の年収比較

##### ⑧武蔵野市一般職の職名別平均給与月額

##### ⑨東京都26市・23区・類似団体の概要等

概要、報酬等の現状、期末手当支給率、退職手当支給率、減額措置

##### ⑩東京都知事・都議会議員等の給料・報酬、期末手当の状況

##### ⑪消費者物価指数

##### ⑫平成28年度武蔵野市特別職報酬等審議会答申

##### ⑬平成30年度武蔵野市特別職報酬等審議会答申

##### ⑭長の担当事務

##### ⑮副市長・監査委員について

##### ⑯議会について

##### ⑰教育長について

## 6 質疑及び意見

### (4) 資料説明

【会 長】事務局から武蔵野市特別職報酬等審議会関係資料について説明があったが、資料についての質問があれば願います。

【会 長】ないようなので、(5)の審議に入る。

### (5) 審議

#### 質疑及び意見交換

#### ①特別職の給料額及び退職手当額について

#### ②議員報酬について

それでは、市長、副市長等特別職の給料の額、退職手当の額、議員報酬の額について意見交換をお願いします。

【委 員】今コロナ禍にあつて、コロナ対策費用を各自治体が支出している状況の中、経済の落ち込みによって来期以降歳入が減ってくるのが予想されている。物価もある程度安定または下がっていることも踏まえれば、上げるということにはならない社会情勢ではないか。

【委 員】武蔵野市もいろいろな助成金等を支出しており、財政的にもかなり支出が膨らんでいることが予想される。全体的に日本の経済は落ち込んできており、上げるという雰囲気ではない感じがする。市長等の給料を見ると、26市の中でも上位に入っており上げるのは難しいのではないか。

【委 員】コロナ禍で給与を上げるべきではないという考え方は、仕方がない。ただ、こういう状況であるからこそ公務員の方々にはしっかりと働いていただきたい。公的な職にある方々には、それに対応する対価はしっかりと払ってもいいのではないかと思う。

また、市長、副市長、教育長、議員の比較を見ていくと、市長、副市長の他市との比較の順位に比べて、議長や副議長や議員が他市に比べてかなり上位に来ているというふうに解釈できる。どちらに寄せるかは別としてこの乖離は少し詰めてもよいのではないか。

【委 員】先ほど都知事の報酬は現在政治的判断により2分の1という説明があったが、都知事の地域手当というのはどういうものなのか教えてほしい。

【事務局】地域手当というのは、本俸給与に対してそれを一定割合乗じて手当として払うという性質のものであるが、本市の特別職は地域手当の支給はない。東京都の特別職である知事には地域手当を払っており、本市の制度と東京都知事に対しての給与制度がそもそも違う。

都知事に関しては、その給料と地域手当両方、元の条例に書いてある金額を半分にするという趣旨の条例を制定している。これについては、都知事の政治的信条でそのような条例

を制定し減額をしているということである。

【委員】本市市長の退職金については、政治信条により満額支給ではなかったと認識しているが、今の市長が1期を終了したときは、満額ではなく低い率で支払われるというふうに解釈してよいのか。また、仮に松下市長が2期目を迎えたときに、満額に戻したいと言えばそれはできると解釈してよろしいか。

【事務局】その通りだ。

【委員】コロナ禍がまだ落ち着いていない状況ではあるが、他市区町村でも減額措置等の動きはさらに出る可能性はあるのか。

【事務局】減額措置について資料に一覧で示しているが、これ以上に出てくるかは把握していない。

【委員】基本的な報酬等はこのコロナ禍というところを鑑みて、据置きまたは減額が必要であると思う。

【委員】今後歳入が増える見込みがあるとは思えない。地方税も減るということで、今年度が終わってみなくては分からないが歳入が大幅に減ることが予想される。報酬等を上げることは市民感情から考えると厳しい。

【委員】武蔵野市内の商店会は非常に厳しい状況に追い込まれている。このコロナ禍の中で利益、売上げを伸ばしている事業所はごく一部であり、それ以外は商売のありとあらゆる面でコロナの影響が出ている。

リーマンショックのときはごく一部のところにそのショックが来ただけであったが、今回は全部の業種に何らかの影響が出ている。世界中の景気、経済に対して影響を及ぼしており、逃げ道がない、やりようがないというところへ来ている。

【委員】他の委員と同様の意見になるが、個人的には一律カットして、その浮いたお金を本当に苦しんでいる方、特に医療、介護関係者、飲食店の方に回していただきたいと思う。自殺する方がどんどん増えているというニュースを聞くたびに、お金をうまく回す方法はないのかと思う。

【委員】市長等の給与をすぐに下げるべきというわけではないが、この時期に上げることはばかれる。とりわけ、公務員であれば公僕で市民の方に奉仕するという建前であれば、やはり、少なくとも現状どおりかと思う。

【会長】大方の意見が据え置き。下げることはなくても上げることもないということであるが、このような状況の中で公務員にはもっとしっかり働いてほしいという意見も出た。これについて事務局の見解は。

【事務局】職員はコロナ禍においてもエッセンシャルワーカーとして働いている。今後もより一層市民のために頑張ってまいりたい。

【委員】武蔵野市の財政基金はどのくらいあるのか。

【事務局】約450億円である。内訳としては、特定目的基金が約390億円、財政調整基金が約61億円であり、財政調整基金の約61億円が緊急時に使えるお金ということになる。

【委員】財政調整基金から支援金等に支出していないのか。

【事務局】現状ではそれほど基金の取り崩しは行っていない。

【委員】来年2月から新たな経済対策を出すと聞いているが、基金は使わないのか。

【事務局】来年2月から予定している新しい経済対策は7億円程度の規模を想定しているが、基金を取り崩すのではなく、一般会計の中からやりくりをする予定である。

【委員】以前は基金がとても多かったが、現在約60億円ぐらいしか緊急時に使えるお金がないということであり、このコロナ禍では、60億円ぐらいなくなってしまう可能性はあると思われる。これを踏まえ、特別職と議員の報酬等をどういうふうと考えていくのか。議員にしても、一生懸命やっている人はいると思う。今の議員は、報酬を上げなくていいという方が多いが、これだけやっているから議員報酬を上げてほしいという意見も出てほしい。

【委員】上げてほしいというのは言いにくい立場である。報酬は他市区との比較でどうかという話であり、現在の報酬で1か月生活するのに足りないという水準ではない。

ただ、今、政務活動費の使い道がかなり厳しくなっており、またこれは他市区と比べて低い状況にある。

【会長】この政務活動費については2年前の本審議会からペンディングになっていた事項である。2年後にはおそらく議会基本条例ができるだろうから、それを見て考えようという話になっていたと思う。

【事務局】第2回審議会では議員ヒアリングを行う。そのときに政務活動費の使途、その必要性について御質問いただきたいと考えている。

【委員】コロナ禍で働いてはいるが、それが経済を活性化するための働きではなく、補填するための働きみたいになっているという状況がある。市も通常よりも違った要素の仕事が相当増えているんじゃないかと予想しているがいかがか。

【委員】市の職員はとてもよくやっていると思う。商店街同様、医療業界も収入が激減した。辞めた医療機関も幾つもありまた、毎月赤字が出ている病院などもある。その割に仕事はとても多い。これまで市の税負担を大きく支えていた医療機関もあると思われるが、このような状況にあり、市の税収もおそらく下がると思われる。

公務員の方々や議員の方々はコロナ禍で何をやってたのかという話であり、それは仕事を見ないといけない。コロナの時期というのはあと数年は続くだろうと予想はされているため、議員の方々にはしっかりと働いていただきたい。

前回の本審議会における議員ヒアリングでは、議員から熱意が伝わってこないケースがあった。発言に熱意が感じられず何をやっているのかがよく分からない。自分がどれだけ仕事しているかというのをアピールしていただきたいが、それがあまりなく、大丈夫なのかという不安を前回は感じた。

【会 長】市の財政見通しについて、コロナによって財政がどれだけ減るかということを試算していたと思うが、それは幾らぐらいだったのか。

【事務局】今、財政部門が試算しているところだが、明確な部分としては都市計画税減税をしたため13億円の減収が見込まれる。また、個人市民税については1年遅れになるため、来年度はかなり落ちるだろうという想定はしている。

【委 員】武蔵野市はふるさと納税で減収していると聞いているが、どのくらい減っているのか。

【事務局】令和元年度分で約6億円の減収である。

【委 員】ふるさと納税により億単位での減収となることは大きなことである。それも勘案すると、報酬をやっぱり上げられる状況ではない。

【委 員】リーマンショックの状況とコロナ禍の今の状況というのは、明らかに今回のほうが激しく落ちている状況であり、経済的には大きなダメージがある。今回はほぼ全業種にわたって影響があり、下手すると10億円以上の可能性が十分あると思われる。

武蔵野市は幾ら豊かだと言っているけども、コロナ禍でどれだけ経済状況が悪化するかは、見当もつかない。ただ、少なくとも5億円、6億円の問題じゃないということだけは間違いないと思われる。

【会 長】財政調整基金はどのくらい残っているのか。

【事務局】財政調整基金は約61億円とご説明したが、現状では約5億円減り、残り約56億円である。

【会 長】これまで据置きというご意見が多いが、特別職の給料の額及び退職金について資料等を見ていかがか。金額としていかがかという話もしていただきたい。

【委 員】実際、議員報酬だけでは生活が苦しい方もいるのではないか。

【委 員】お子さんが2人、3人いらっしゃる方は教育費がかかったりと苦しい部分があるように聞いたことがある。議員活動では広報費が一番かかり、これを政務活動費だけで賄うこは

難しいため、議員報酬の中から充てる場合がほとんどではないかと思う。

ただ、26市の議員報酬の状況を見ても本市は上位にあり、上げる状況ではないという気はしている。他委員からご意見が出たとおり、議員ヒアリングに際しては、議員として熱を持って我々に訴える姿勢は確かに欲しい。

【委員】若い人や主婦の方で議員になる人が増えてきており、議員報酬に執着している人は確かに少なくなっているように思われる。

【委員】サラリーマン家庭から比べると公務員の方は恵まれていると思う。普通のサラリーマン家庭はコロナ禍で大変な状況であるにも関わらず、議員がコロナ禍でこういった仕事をされているかもはっきりと見えないように感じる。コミセン運営委員などはボランティアであるが、感染防止対策などこれまでにない業務が増えている状況にある。

これを踏まえれば現時点で報酬等を上げるべきではないと考える。苦しみをもっと分けあうべきではと感じる。

【会長】全体的に見て、市の財政は現状では危機的な状況にはないが、現在の情勢を踏まえればほとんどが据置きというご意見であった。ただ、その中で公務員としてもっと働いてほしい、サラリーマンに比べれば恵まれているというご意見も出た。先ほども皆さんに聞いたが、特別職の給料額については、何かご意見はあるか。

【委員】下げるといふ方向の議論をしていくのであれば、2年後に市税も含めた歳入の状況が見えてくると思われるので、その状況を踏まえてではないかと思う。

【会長】次回、議員ヒアリング終了後、本日の議論や議員ヒアリングを踏まえて議論を進めていきたい。本日の審議会はこれで終了とする。

(終了 午後7時45分)